

ブロックを作成する

■ ブロック化のメリット

図形などをブロック化することで、いろいろなメリットが生じると思います。

① 作業効率の向上

同じ図形を何度も描く必要がなくなり、作業時間を大幅に短縮できます。

② ファイルサイズの軽量化

繰り返し使用する図形をブロック化することで、図面のデータ容量を削減できます。

③ 図面の整合性／正確性の向上

ブロック定義を変更することで、図面内の全てのブロックインスタンス（インサート オブジェクト、挿入されたブロック）にその変更が反映されるため、図面全体の整合性／正確性が向上します。

④ 再利用性の向上

作成したブロックは他の図面でも再利用できるため、ブロックを一元的に管理することで、設計の標準化／効率化などに利用できます。

⑤ 属性を利用可能

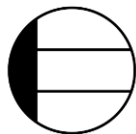
個々のブロックインスタンス（インサート オブジェクト、挿入されたブロック）に固有の情報「属性」を持たせることが可能で、ブロック定義を変更しても保持されるため、「属性」を利用したデータ集計が可能になります。

⑥ ダイナミックブロックの活用

ダイナミックブロック機能を使用することで、1つのブロックに複数のバリエーションを持たせることが可能です。例えば、同一のブロックでも、形状や大きさが異なる図形を表現できます。

■ ブロックの作成方法

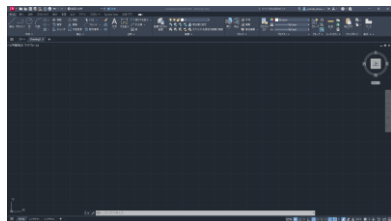
例えば、下図のような図形をブロック化することを考えたいと思います。



基本的な操作は、以下の流れです。

- ① 図形を描く
- ② 「BLOCK」 コマンドを実行して「ブロック定義」ダイアグラムを表示する
- ③ 「挿入基点を指定」アイコンをクリック、画面上で挿入基点を指定（クリック）する
- ④ 「オブジェクトを選択」アイコンをクリック、画面上でブロック化する画像（オブジェクト）を選択する
- ⑤ 登録完了

動画で見てみましょう



クリック
動画が再生されます

動画の説明

- ① すでに図形は描画済みです
- ② 「ブロック作成」アイコン（BLOCKコマンド）をクリックして「ブロック定義」ダイアグラムを表示します。
- ③ 「挿入基点を指定」アイコンをクリック、画面上で挿入基点を指定（クリック）します。
- ④ 「オブジェクトを選択」アイコンをクリック、画面上でブロック化する画像（オブジェクト）を選択します。
- ⑤ 「OK」 釦
- ⑥ 登録完了です。
- ⑦ 「ブロック挿入」アイコンをクリック、登録したブロックを選択して任意の位置に挿入できます。
- ⑧ 図面上のブロックを削除しても、「ブロック挿入」にて 再度描画可能です。

ブロック作成時における「ブロック定義」ダイアログの設定詳細については、[こちら](#)をご覧ください。